

第 11 回 神戸圏域地域医療構想調整会議 地域包括ケア推進部会

1. 日時 2024 年 8 月 29 日（木曜日）17：00～19：00
2. 場所 中央区文化センター1001・1002 号室
3. 司会 神戸市医療監 北 徹（会長） 神戸市健康局部長 梅永 司（事務局）
4. 出席者 委員 18 名のうち 15 名出席（うち、現地参加 10 名 Web 参加 5 名）

5. 会議次第

○議事

- （1）地域医療介護総合確保基金（医療分）にかかる令和 7 年度提案事業及び令和 5 年度の実施状況について
- （2）介護予防に関するワーキングの開催について
- （3）ICT 連携ツールアンケート調査の結果について

○報告

- （4）口腔アセスメントツールの利用状況について
- （5）精神障害にも対応した地域包括ケアシステム協議部会設置及び「精神保健福祉対策の強化」のための神戸市新規事業について

6. 主な質疑応答

（1）地域医療介護総合確保基金（医療分）にかかる令和 7 年度提案事業及び実施状況について

（ア）在宅医療（特に医療的ケア）に関わるライフステージを通じた支援体制の確立（神戸市医師会）

- ・患者の成長により小児科から成人科に移行をしていくが、同事業はそれらすべての時期への対応について網羅しているのか。また、訪問看護師や歯科医など、より多職種の会議体への参加を求めているかどうか。（委員）

→現状としては、医療的ケア児者への担い手は非常に少なく、在宅医については、数人レベルで市全体を担っている状況であり、本事業を通じて医療的ケア児の在宅における診療のノウハウを伝え、部分的にでも対応可能な在宅医を増やしていきたい。また、会議体では既に看護師の委員の参加があること、歯科医についても別途意見の取り込みを行うようにしており、引き続き多職種の意見を求めながら進めていきたい。（提案者）

（イ）ACP 対応に向けて多職種連携支援事業

（北区医師会）

- ・直接患者によく関わる職種と、そうでない職種とが存在するため、多職種が共通認識をも

つ場を設けることについては、非常に良い取組みと考える。ACP の全国的な事例集はないだろうか。また、具体的にどのような施設や対象者、シチュエーションを考えているか。

(委員)

→事例集は出てはいるが、実際の個別カンファレンスの振り返りをすることも少ないため、実際の事例を多職種で共有することに意味があると考えている。医師・薬剤師・歯科医師にまず焦点を当て、そこで事例を検討していきたい。(提案者)

(ウ)「東灘区在宅 NST 推進研究会」の推進と活用

(東灘区医師会)

・成果もあげているので引き続き進めていってもらいたい。サマリーの配布はしているのか。

(委員)

→600 部程準備し、配っていている。(提案者)

(エ) 神戸圏域における多職種連携の強化、地域包括ケアシステム拡充のための取り組みとしての小児在宅歯科医療の推進

(神戸市歯科医師会)

・これは神戸市歯科医師会全体の事業であるのか。市全体に広げていきたい、という理解でよいか。在宅対応が可能な歯科医師が把握でき、ネットワークができれば患者の紹介も可能になる。極めて重要な事業であり、行政の支援も必要と感じる。(委員)

→現状、市内でも数名の医師でしか対応できていないというのが実態である。各区に下ろすには人材不足で、市歯科医師会全体で考える必要がある。歯科センターで障害者歯科対応をしているが在宅は対応しておらず、在宅対応について裾野を広げていきたい。今後対応できる歯科医師を増やしながらリストを作る必要があると考えている。(提案者)

(オ) 在宅療養者に対し低栄養予防の管理指導を行える人材の育成事業

在宅療養者に対する嚥下機能評価と口腔機能管理のできる人材育成事業

在宅療養者への嚥下機能評価と口腔機能管理ができる人材育成

特定疾病を有する在宅療養者に対し歯科診療・口腔機能管理を行える人材育成

在宅療養者の口腔管理・栄養管理を要する在宅歯科医療推進事業

(東灘区歯科医師会)

・神戸市全体に広げていく考えはあるのか。またニーズなど成果物があれば、成果物をもって神戸市歯科医師会にもっていけるのではないか。(委員)

→まずは、自分たちの足元をかためて、将来的には神戸市全体に広げていきたい。(提案者)

(カ) 地域包括ケアにおける薬物療法を支える医療職の実践のための研修

在宅医療での神経難病の患者の対応についての多職種連携に関する講演会の実施

在宅医療での嚥下障害の患者の対応についての多職種連携に関する研修会の実施

(垂水区医師会)

- ・垂水区で成果をあげてから、将来的には、神戸市全体に拡げていこうという考えはあるのか。(委員)
- まずは垂水区という小さな母体の中での交流を通じて、いずれは神戸市全体に拡げていきたいと考えている。(提案者)

- ・今回の提案事業については、全て地域事業として兵庫県へ申請を行いたい。(事務局)

(2) 介護予防ワーキングについて

- ・歯科医師会ではオーラルフレイルチェックも実施しており、その項目のデータ解析や効果測定のためのデータを示していただきたい。(委員)
 - ・高齢者うつ病もスクリーニングを行い、正しく治療を行えば改善に向かうので、健康寿命の取り組みの中に入れていくべきである。(委員)
 - ・フレイルチェック事業について、認知機能面のチェックも進めてほしい。フレイル改善通所サービスの利用終了後のフォローアップについても大事であるとする。(委員)
- フレイル改善通所サービスについては、認知症検診の中で MCI と診断をされた方も対象としている。また、MCI と診断をされた方向けのパンフレットの中でもフレイル改善通所サービスの紹介をしている。フレイル改善通所サービスへはあんしんすこやかセンターによるマネジメントをした上で繋げており、フレイル改善通所サービスを終了した後も状態に応じて総合支援事業へ繋ぎフォローアップをしている。(事務局)

(3) ICT 連携ツールアンケート調査の結果について

- ・ICT 連携ツールの利用者が欲しい情報について話し合えるツールが必要である。神戸市において ICT 連携ツールを 1 つに揃えてほしい。また、運用の費用についてどうサポートをするのかについても検討していただきたい。(委員)
- 他の市では、地域の実情に応じてシステム管理者を立てており、仮に神戸圏域で統一するのであれば、そのあたりを踏まえ検討する必要がある、今後の進め方については相談させていただきたい。(事務局)

(4) 口腔アセスメントツールの利用状況について

- ・非常にわかりやすいチェック票であり、専門職種以外の方、例えばご本人や家族でもチェックできる内容になっている。(委員)
- ・医療介護サポートセンターでは訪問歯科診療の情報提供も行っているため、チェック票を広める役割も担っていければいいと思った。(委員)

(5) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム協議部会設置及び「精神保健福祉対策の強化」のための神戸市新規事業について

- ・精神科医療においても、身体合併症や感染症罹患を併発される患者もおられる。精神科病床をもつ公的病院の役割についても、検討課題に入れていただきたい。(委員)